

令和8年度 第3回 新見市地域公共交通会議議事録

日時 令和8年9月29日（火）10：00～11：20

会場 新見市役所南庁舎 3階大会議室

1. 開 会

会議の成立を報告

2. 会長挨拶

3. 協議事項（4件）

1）「新見市予約型乗合タクシー「新見東部乗合タクシー（仮称）」の実証運行について

・ 事務局より資料1－1・1－2により説明

（委 員） 新見駅の拠点性を高める考え方を中心としてまちづくりをしていかれるという考え方は大いに賛成するところです。資料の11ページに記載されている新見駅降車後に利用者が「ら・くるっと」などへスムーズに乗り換えができていのかを検証するという項目について、どういように検証するイメージですか。

（事務局） 乗合タクシーは運行日誌で、新見駅まで行ったことは把握できます。そこから先はアナログな作業となりますが、担当課として新見駅で乗合タクシーを降りる人にどこまで行くのかを聞く調査を数日間行うことを想定しています。

（委 員） 「ら・くるっと」が東部地域方面では、運動公園口までということになっていますが、さらに大佐方面に延伸する可能性はありますか。

（事務局） 「ら・くるっと」は、本年4月から緑とオレンジの2便化をしたときに、運動公園口までルートの方を延長しました。その運行ルートを設定する際に、ある程度の時間内で循環するというところに、重きを置いて検討しました。大佐方面に延伸する場合、1週の循環時間が長くなってしまうため、現在の1日7回の周回数が少なくなってしまうことにより運行効率が悪くなります。今のところ、現在の運行距離が利用者とのバランスがよいと判断しています。

（委 員） 前回のときに、他の地域も結節点を新見駅にしてはどうかというような意見を言わせていただきました。その後、利用されている方などに話を伺うと、直接新見駅まで行ったら、駅から電車に乗って、倉敷・岡山とかに病院とかに行くのにとても便利という意見がありました。一方で、他の方にお聞きすると、新見駅まで行って、「ら・くるっと」に乗り換えて、その目的地に行くのであれば、横見で乗り換えても一緒であるという意見もありました。様々な意見がある中で、全ての皆さんの意向に沿うことは難しいことなので、今回の実証運行をした上で、また全体を見直していくことも考えられるのであれば、この形がいいのかなと思いました。

（事務局） 私どもも聞き取りや利用者の方のお話を聞いている中でも、皆さん様々な公

公共交通の使い方をされているものと認識しております。その中で、頻繁に利用されている方は、私たちが思うよりも上手な利用をされているため、そうした方の意見が重要であるということは日々思っております。

エリア外の指定乗降場所に向かう途中は停まらない場合に、本当に乗り換え場所がどこがいいかというのも今後の検証材料になってくると思っています。そういうところも含めてまず1度東部で実証してみたいと考えております。

(専門員) 前回の会議において、結節点の考え方について市としての方針を示すように意見をさせてもらったところですが、本日このような方針をお示しいただいた。その内容も、非常に理解できるわかりやすい内容になっているので、このまま進めていただけたらと思っています。

来年度末で、現行の地域公共交通計画が期限を迎えることになると思いますので、おそらく来年度から新交通計画の議論が始まると思っています。そのときに、ここで得られたデータや意見をしっかり反映させてもらって、次期交通計画へ結びつけてもらいたい。

(委員) 哲多地域も、現在石蟹駅が乗降場所となっているんですけど、将来的に新見駅を拠点とするという考え方をお示しいただいた中で、今後は、石蟹駅もあるけど新見駅もあるということも一応お考えの中にあるのでしょうか。

(事務局) 最初に申し上げた市の計画にある新見駅を中心とした多極ネットワークというのは、市のまちづくりの方針の中にある各エリアと新見駅を結ぶという以前からの考え方をお示ししたものです。

今後、乗合タクシーをどうしていくのかということは、非常に皆さん関心が高いところだと思いますが、この東部の実証運行を行い、得られたデータを共有し、来年の交通計画の改定と併せて委員の皆さんと審議して進めていきたいと思っています。

そのため、今この場で今後は新見駅に繋いでいくということをお約束するものではないということをご理解いただければと思います。

(会長) 2点ほど指摘させていただくと、1つ目は、新見駅を中心として接続機能を高めていこうというような考え方と、市街地エリアにおいて「ら・くるっと」などとの乗り継ぎを原則とするという考え方に、少し齟齬があるように感じています。

新見駅の接続機能を高めることが、石蟹駅や横見バス停での乗り換えを新見駅まで乗り入れることとも考えられるし、「ら・くるっと」につなげて石蟹駅や横見バス停を乗り換え拠点として整備し直すようにも捉えられる。両方とも、同じ項目で上がっているためわかりにくいように感じています。

2つ目は、今回の実証する項目について、何と比べて向上したと判断するのか明確じゃないように感じることです。

①利用者の乗り換え動向については、スムーズに乗り換えができていないか検証との記載がありますが、これはどういう意味でしょうか。

②既存事業者への影響と運行効率については、これが事務局においても一番

重要だと考えているように感じています。この検証については、業者から帳簿をみせてもらうようなことは多分しないと思いますが、どうやって検証するのでしょうか。

③指定乗降場所機能および待合環境の評価については、乗り継ぎしていただくためには、一番大事なところだろうと思います。おそらく、運動公園のところで乗り換えた場合より、新見駅の方がいいよねという検証だとした場合、そんなのはやらなくてもわかっている気もします。

基本的な考え方のところ、両方のことを言っているし、検証の仕方も何だかよくわからないところがあるので、もう1回説明してください。

(事務局) ①利用者の乗り換え動向については、新見駅のメリットとして考えているのは、利用者の方にとって営業タクシーに接続することもできるということがあるため、そこを含めて検証することを考えています。

②既存事業者への影響と運行効率については、確かに決算をみせていただくことは想定していませんが、例えば営業タクシーの場合、利用状況とかを定期的に聞き取りを行うことや、実際、駅の方で乗合タクシーから営業タクシーになるところを確認するなどさせていただきたいと思っています。また、「ら・くるっと」につきましては、2台運行にしてから利用者がある程度増加傾向にあるため、これが順調に増えていく状況などを常に把握していければと思っています。

③指定乗降場所機能および待合環境の評価については、これはおっしゃっており、運動公園口よりも新見駅の方が、利便性が高いという趣旨になっています。

(会 長) 現状、乗りかえる場所も何もないことから、雨ざらしのところで待つというわけにもいかないのが、新見駅に接続してもいいのかなと思うんですけども、今回ここでやる検証結果が、将来他の路線の検証や根拠に使われる可能性があるため、非常に大事なことをやろうとしていることを意識して、検証していただきたいと思います。

(委 員) 新見駅を中心というのはすごくわかるんですが、このバス待合所の新設は困難であるっていう場合に、他の地域ももし例えば雨ざらしになってトイレとかないうところ、作って欲しいっていう要望があった場合にも、困難だからやはり新見駅に結節することも考えられるということですか。

(事務局) 横見のバス停（上市市民センターを含む）やサンパークのバス停は、トイレや待合所について対応ができる状況になっていますが、その他のバス停の中には、十分な待合所がない場所もあります。

待合所に関しては、運行事業者さんと相談しながら、順次導入を判断している状況なので、結節点も今後考えていく必要があると思います。

【協議事項1） 承認】

2) ふれあい送迎バスの路線休止について (新見東部地域)

- ・ 事務局より資料2-1により説明
(質疑応答なし)

【協議事項2) 承認】

3) 「新見市予約型乗合タクシー「新見南部乗合タクシー」の本格運行について

- ・ 事務局より資料3-1により説明

(専門員) 新見南部乗合タクシーの利用状況の方で、令和7年と比較して、令和8年度が結構増えたような印象があるんですけども、これは何か特別な何か啓発とかを行った結果なのか、その理由を教えてください。

(事務局) まず、令和7年度の11月から3月の間は、備北バスの満奇洞線が日中も運行しておりましたので、そちらを利用されている方がいらっしゃったことによるものと思われます。4月からは満奇洞線の日中便が休止いたしましたので、その分利用が増えたものと考えています。

また、利用実績等によりますと1度利用した方が何度も利用していただいている傾向がありまして、多い人だったら週1回とか使っていただいているので、それが延べ人数の増加に繋がっているものと考えています。

(専門員) 地域住民との意見交換会の中で出てきた意見の中で、Web予約をアプリ化して欲しいというものがあるんですけども、すでにJRのウェスターアプリと連携して予約ができるものと認識していましたが、これはこういった意見でしょうか。

(事務局) 本市のシステムにつきましては、おっしゃるとおりウェスターアプリと連携しているので、そのアプリから本市の乗合タクシーの予約画面に入っていくことはできます。

ただ、ウェスターアプリでは、起動後に新見市を選択するなどもう何回か押さないと予約画面に進まないため、一回押すだけで予約画面が立ち上がって欲しいというご意見でありました。

あと、もう1つの方法であるチラシからQRコードを読む方法も、毎回QRコードを読むことが難しいとのご意見もあり、そこら辺の改善ができないかといったものでありました。

(委員) 先ほど実証運行して、アンケートをとったら満足度も高く、利用者も増えていったので、今後も続けていきたいという話だったんですけど、他に市として具体的な課題がありますか。

(事務局) 細かい部分といたしましては、例えば委員さんも言われましたように、病院やスーパーなどに停まってくれないのかという意見がたくさんあります。

それから、8時30分から16時という運行時間をもう少し拡大できないのかというご意見や、土日でも運行してくれないのかといったご意見も各地で出ております。

こうした問題につきましては、先ほど説明させていただきましたように、全域

を入れた後に、総合的に乗合タクシーの運用について考えていくこととしております。ご利用される方や地域の方にとって、そういったもっと改善して欲しいというご意見をお聞きしながら、今後の乗合タクシーの運用については考えてまいりたいと思います。

(会 長) 次年度以降、また計画の作り直しのタイミングで、乗合タクシー全般をどう考えるのかというような議論につなげていただければというふうに思います。特に、この結節点での乗り換えについてという質問項目は、乗り換えすること自体についての意見なのか、乗り換えする場所のクオリティについての意見なのかかわからない質問になってるため、また来年度の調査では、そのあたりをちょっと分けて聞けるような形にしていいただければいいのかなというふうに思っております。

(専門員) 先ほど承認された東部地区の実証運行の後にも同じようなアンケートをされると思っておりますで、先ほど実証運行でいろいろ検証しますといった内容を踏まえたアンケート項目になるように、先ほどの皆様からご意見も踏まえながら、反映していただければと思っておりますのでよろしくお願いします。

(委 員) 今まで乗合タクシーは、隣接するエリアの乗合タクシー同士を乗り継ぐための結節点が必ず設置されていたと思いますが、新見の東部と新見の南部を行き来したい場合の結節点はいらないのですか。

(事務局) 今の東部地域につきましては、隣接する北部地域とは福本ふれあいセンターにより結節しています。また、同じく隣接する大佐地域には、大佐診療所、J A 大佐支店、金田医院が結節しています。そのため、横の繋がりとして、ここで乗り換えをしてそれぞれのエリアに渡って動いていくことはできます。ただ、南部地域や哲多地域については、東部エリアに直接行くという結節点、乗り換え場所は現状ありません。今後、エリア間の接続についてどのようにするのかということは、その需要の有無や、バスや鉄道との接続による移動なども考慮しながら、引き続き考えていく部分として認識しております。

【協議事項 3） 承認】

4) ふれあい送迎バスの路線廃止について（新見南部地域）

- ・ 事務局より資料 4－1 により説明
(質疑応答なし)

【協議事項 4） 承認】

4. その他 特になし

5. 閉 会